

地に生きる、地を生かす

第71号



巻頭インタビュー

田中仁

株式会社ジズホールディングス  
代表取締役 CEO

群馬県を、  
起業家の生まれる  
土地にする

CHIKIJIN

特集

# 地方で起業する

インタビュー

宮城治男

NPO法人 ETIC.  
代表理事

群馬県前橋市

起業家を  
支援する  
まちづくり



和歌山県和歌山市

鳴海禎造

glafit株式会社

長野県東御市

平田はる香

株式会社わざわざ

山梨県小菅村

山田司朗

Far Yeast Brewing  
株式会社

京都府京都市&  
東京都荒川区

福岡瑞萌

合同会社Lily may

奈良県吉野町

松本 梓

チアフル株式会社

群馬県高崎市

葉一

教育YouTuber

福岡県うきは市

大熊 充

うきはの宝株式会社



連載

養老孟司

北川正恭

島蘭 進

小峰隆夫

森まゆみ

二宮清純

岩村暢子 ほか

大正大学出版会 編集・地域構想研究所

# 仙台藩の茶の湯文化を伝える茶室 一般公開に向けて紙芝居を制作

## 蓑首城跡の茶室

宮城県山元町

宮城県内最古の大條家ゆかりの茶室、その価値を子どもたちに伝えようとおうちでも楽しみながら学べる紙芝居のCD-Rを制作。茶室は役場とも協働して2022年度の一般公開を目指す。

宮城県の最南端に位置する山元町。町内に点在するいちご農園には、春になると毎年大勢の観光客が訪れる。

一方、仙台藩の家臣で江戸時代初期から明治維新までの地を治めた大條家が居城とした蓑首城跡（現在は坂元神社）も、地元の人々にとっては大切な存在だ。なかでも、蓑首城跡の茶室は仙台藩の茶の湯文化を伝える

る貴重な遺構で、2002年に町の文化財に指定されている。茶室は経年劣化に加え、東日本大震災で大きな損傷を負ったまま放置されていることを憂いた住民グループの「山元いっ茶組」は、茶室の価値を信じ、修復・保存を求める活動を2016年から行ってきた。

「茶の湯が盛んなった仙台藩の上流家臣宅には茶室が多くあつたはずですが、これは唯一残っている県内最古の茶室で、伊達政宗が豊臣秀吉から賜ったとの興味深い言い伝えもある茶室です」と代表の清水ますみさん。役場も動き始めた。現在は2022年度の一般公開に向けた修復と調査を行っている。

山元いっ茶組は、今年子どもたちにも茶室の歴史をわかってもらおうと、紙芝居を制作し、CD-R化した。

「山元いっ茶組」の発起人5人全員が脚本、出演、音楽を担当しています。絵は障害者就労支援NPO法人ボラリスに、ナレーションも民話の会や、読みかかせの会メンバー他、政宗役は震災FM局りんごラジオの高橋厚さんをお願いするなど町民の手作り感あふれる作品が完成。制作費は活動の余剰金やご寄付で賄いました。



1茶室の一般公開は2022年度に予定されている。2 昨年春には三の丸跡入り口に解説板も設置された。

紙芝居は今年3月に完成したが、このご時世、なかなか大勢では集まらないため、関係者8人の上映会を開催。紙芝居のCD-Rは150枚焼いて、資料と共に町内の保育園、幼稚園、小中学校、高齢者施設に配布したところだ。

「この紙芝居は茶室の修復、保存、活用を求める活動の一環。地元のお殿様の茶室として、山元町の人々が大切に思ってきたことが伝わればうれしいです」

城跡は桜やツツジの名所として地元の人々に愛されてきた。来春には修復なった茶室を、心おきなく楽しみながら、花見ができるよう、願うばかりだ。

(石原たきこ)

3 絵を担当したのは障害者就労支援NPOボラリスの宮部あゆみさん。脚本に合わせて場面を描き分ける。  
4 紙芝居の制作スタッフ。後列右から2人目が清水さん。5 紙芝居は1部、2部と合わせて約20分。